

第3回区民会議（1月22日開催）における「子育て支援」に関する委員意見について

- 幼児、乳児に絞らず子ども全体の支援を考えた場合、人間関係がテーマとなる。子ども以上に親の人間関係、コミュニティづくりがうまくいっていない。人間関係の下手な親御さんの下で育つ、子どもは人間関係形成にデメリットが多いのではないかと。（成田委員）
- 地域の方と子どもが触れ合うことで子どものシグナルに気づくことができるのではないかと。地元の商店街へ子どもが買い物に行くことによって、店での色々なやり取りを通じて子どもの情操が形成されていくのではないかと。（成田委員）
- 各世代途切れ途切れの取り組みが多いので、世代間の子育て交流の取り組みをしてみたい。（成田委員）
- 商店や工場などを活用して世代間の交流が行えるのではないだろうか。昨年度の市民提案型事業の「メタルパッチワーク事業」や市民報告会が例となる。（寺岡委員）
- 世代間交流を行えたらよいと思う。（橋本貞子委員）
- 第3期の「地域における子育て応援体制づくりアンケート」の結果を活用するべきである。（富岡副委員長、板倉副委員長）
- 中原区の子育て支援は、こんにちは赤ちゃん訪問⇒子育てサロン⇒保育園⇒幼稚園⇒小学校⇒中学校とつながりをもっており、中身がかなり充実していると思う。（富岡副委員長）
- 子育て支援は児童委員が主に担当して、地域で活動している。児童委員の欠員も問題となっている。児童委員充実に向けたPRもしてもらいたい。（石井委員）

※第3回区民会議での発言順に並べています。